

植林によって 地球温暖化を防ごう

第10回植林記念誌



友好植林

美しい地球環境
を守ります。
子孫に自然を
贈りましょう。



特定非営利活動法人
日中環境保全友好植林実践会
平成20年8月10日発行
〒113-0034
東京都文京区湯島3-1-3 MSビル
TEL03-3836-9408
FAX03-3836-2489

継続は「力」なり



と緊張の連続の日々でした。

水野団長が体調不良のため突然の不参加に伴いましたが、私が団長を代行することになりましたが、急遽重責を負った驚き
三名の副団長をはじめご参加の団員の方々のご協力の下で無事終了できましたことを心から御礼申し上げます。
さて、今回は初参加の方が意外に多く彼らには本当に貴重な経験、そして感動というものを心から実感できたものと確信しており、また将来この経験が必ず役に立つものと思っております。

当植林実践会の活動も第十回目を迎え、一つの節目でもあり過去の植林活動に対する反省と、これまでの振り返りには良い機会であると思えます。

その中で、一回目から今回まで連続して参加されている佐藤副団長に於きましては、改めて心からご苦労様、そしてその功績に対して敬意を表したいと思います。

私も第六回から参加しておりますが、その当時と最近の植林とは大きな変化が出てきたと実感しております。当時は植林現地の県長や政府要人の出迎え、また地元の小中学生によるプラスチックの盛大な熱烈歓迎を受け感謝を受けたものですが、最近はその度合いが以前と大きく違ってまいります。

それは、一言で申し上げれば以前は自己満足の感激でした。しかし最近では地元の人たちが、我々の活動に対して「わざわざ中国まで来ていただいて中国の為、地球環境のために植林をしてきていただいてありがとうございます」という声が聞こえてくるような気がしています。

そして、その様な気持ちで現地の人たちの何万人規模の参加として表れており、それを支えたのは我々植林実践会の長年の継続が力となったものと自負もしております。

最後に、今回は我々植林実践会のお声掛けにて「大連岩崎電気有限公司」の森本総経理のご配慮により社員とご家族を含め百二十八名様ご一行を伴い参加され、また、日本の団体である「全国燃料協会」様ご一行十四名が参加されるなど大いに盛り上がりました。

このことにより、大連さらに中国の日本企業への働きかけを行なうことが今後の課題となりました。

我々日中環境保全友好植林実践会はまだまだ小さな団体ではありますが、地球環境を守るためそして日中友好のために今後もっと大きな活動に広げていくよう、皆様のご協力と会員全員の努力が必要であると思えます。

参加された方々（敬称略）

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|---------------------|-----------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|------------------------|------------------------|----------------------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| イデシギヨー(株) 井出 正芳 | 株 京樽(株) 阿井 正夫 | 株 湧別商事(株) 小島 浩一 | (有) 佐藤商店(副団長) 佐藤 浩一 | 大連岩崎電気(有) 森本 秀昭 | アオト印刷(株) 上 順一 | 株 京樽(株) 木下 淳 | 株 京樽(株) 星野 智信 | 株 京樽(株) 津島 直人 | 株 京樽(株) 久保 忠直 | 株 京樽(株) 米田 忠雄 | 株 京樽(株) 東海林 強 | 株 京樽(株) 北立 俊夫 | 株 京樽(株) 足立 和夫 | 株 京樽(株) 陽明印刷(株) 北角 能徳 | 株 京樽(株) 旭化成パックス(株) 諸岡 明徳 | 株 京樽(株) 旭化成パックス(株) 星島 哲明 | 株 京樽(株) 大阪イリテック印刷(株) 池田 哲司 | 株 京樽(株) 京葉流通倉庫(株) 飯塚 正男 | 株 京樽(株) 富国紙業(株) 吉川 正勝 | (有) 佐藤商店(株) 佐藤 真介 | 株 京樽(株) 王子運送(株) 元田 祐介 | 株 京樽(株) ジョーンズデイバシー(株) 井出 貴臣 | 株 京樽(株) イデシギヨー(株) 大関 学 | 株 京樽(株) デンカポリマー(株) 森山 仁正 | 株 京樽(株) 北越パッケージ(株) 小島 正人 | 株 京樽(株) ジョーンズデイバシー(株) 日野 勝士 | 株 京樽(株) アオト印刷(株) 佐藤 一弘 | 株 京樽(株) 溝端紙工印刷(株) 堀川 治 | 株 京樽(株) 東海東洋アルミ販売(株) 村山 泰造 | 株 京樽(株) 三徳日中技術(株) 王 烈 | 株 京樽(株) 大連三和家庭用品(有) 王 烈 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 亀井 克巳 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 中田 武巳 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 笠原 良悦 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 高橋 清司 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 中露 浩二 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 西川 雅文 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 薄田 康生 | 株 京樽(株) 水野産業(株) 江東 康生 |
|-----------------|---------------|-----------------|---------------------|-----------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|------------------------|------------------------|----------------------------|-----------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|



参加された皆さまからすばらしいお便りが届きました！

緑 縁

副団長 湧別商事(株) 小島 博



十回目の歴史を重ねました植林事業が盛大のうち無事終了した事は、大きな喜びとさわやかな風を感じたような気持ちでした。

一つの節目を越え、植林実践会が更に発展し、遼寧省で都市部の水源地や汚染された空気と海を守る為、更に活動を継続しなければならぬと考えます。

私達、植林実践会の想いは三十年後岫岩に沢山の鎮守の森ができています。更に、実際に岫岩近郊の山で植林・育林をしています。

将来岫岩市内が急速に発展し、私達が植えた苗の所まで立派な道路が走り、家が建つようになれば、そのなかでたまたま、うまく植えた所が人々の目に留まって公園のようになる。

または、毎年植林をして、緑が岫岩を取り囲むようになり、市民自らももっと身近に緑を欲しいと思った時に、ここから岫岩の人たちが作った鎮守の森ができるのかなと近い将来を想い描いています。

それには昔、岫岩に生い茂っていた古



来種を、我々の手で復活してあげる事は大切な事です。

今年は大連岩崎電気有限公司の森本秀昭様がご家族、従業員の方を含みます一八名で休日にもかかわらず三台の大型バスで往復七時間以上もかけ、会社の行事として参加していただきました。

全国燃料協会浅野会長様、古本副会長様はじめ十二名の御参加もあり、我々、植林実践会に将来の方向性と大きな自信をいただいたと感じました。誠にありがとうございました。

水野理事長の都合がつかず参加できませんでしたでしたが、いつもと変わらず順調にいったと思います。

井出団長はじめ、阿井副団長、佐藤副団長に中田事務局長、おつかれさまでした。さらに全理事、参加されたすべての方々に感謝いたします。

また毎年変わることなく対応して頂いている岫岩県政府、劉書記、県長、各副県長、関係者の方々、民間企業経営者や記念品と白酒を戴きました三和環境有限公司の董会長、ありがとうございました。

節目の第十回植林

副団長 (有)佐藤商店 佐藤 浩一



日中環境保全友好植林実践会は、今年節目となりまず第十回目の植林を盛大に執り行う事が出来ました。

この十年間いろいろな事がございましたが、ここまで継続できたのも多大なご尽力をされております水野理事長の植林に対する深いご理解と愛情があったからだと思います。

昨年十一月に水野理事長の発案で大連みずは銀行様のセミナー後に植林勧誘のお時間を頂戴いたしました。私と中田事務局長・小島理事・大連駐在員の薄君の四人で大連技術開発区と大連市内の二会場で植林会への参加を呼びかけました。

開発区では百社以上・大連市内では六十社以上の中で十分程度の短い持ち時間しかなく、我々の植林に対する想いを上手く伝えることが出来ませんでした。事前に準備した植林会の資料を手渡して大連での活動を終えた訳です。

その後、参加者を心待ちにしていたが、待てど暮らせど連絡はなく、此方からは連絡出来ない状況です。ボランティア活動のむずかしさを改めて痛感させられました。

今年の三月末、すでに諦めかけた時、大連岩崎電機様より参加の問い合わせがありました。中田事務局長と小島理事の懸命の参加呼びかけの甲斐あって、社員とご家族・子供達合わせて百二十八名もの参加者を賜りました。

大連まで勧誘しに行つて参加者なしでは面目が立ちませんから、参加の報を受けた時はそれこそ言葉には言い表せぬほど嬉しかったです。

更に全国燃料協会様の理事十四名の参加もあり、今までは一味も二味も違った植林実践になりました。これを機に更に多くの大連に進出して



おられる日系企業の皆様に賛同していただき、この植林会を通して日本と中国との友好の輪がより大きくなっていくことを願わずにはいられません。

今年、岫岩の県長が鄧県長に変わりましたが、関前県長に勝るとも劣らず人柄がすばらしく、植林に対する想いも強く感じます。良きパートナーがいてこそ、すばらしい植林が出来る訳ですから、岫岩県政府の皆様のお力添えには感謝の言葉しかありません。

これからも良きパートナーとして毎年、少しずつでもいいので前進していける様

な植林実践会にしていきたいと思ひます。中国の将来を背負う子供たちとの植林はたいへんすばらしいものです。この会報を読んだ皆様にもこの感動を味わって頂く為に是非当植林に参加していただきたいと思ひます。

私事ですが、思いがけず十回連続参加の表彰をいただきました。本当に感謝です。今後も微力ながら当植林会の発展のために尽力していく覚悟です。これからも皆様のご指導とご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

最期になりましたが、今回の植林に参加された皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。来年も又植林会でお会いしましょう。



植林による豊かな未来作り

森本 秀昭

この度は、岫岩での第十回日中環境保全友好植林実践会の植林ボランティア活動に参加するのみで参加をさせて頂く機会を与えて頂きました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

今回の参加のきっかけは、(株)湧別商事の小島社長が昨年の十一月に大連開発区で開催された瑞穂銀行セミナーで、パンフレットの配布と共に紹介された植林NPO活動を知ったことにあります。

会社の行事をもっと増やして欲しいとの従業員からの希望があり、その対応の一つとして植林活動を提案してみました。最初は半信半疑だったのですが、朝六時集合にも関わらず十一名の子供たちを含む一八名の参加となりました。全員が初めての経験で、どんなことになるのかと不安な気持ちを抱きながら三台のバスに分乗して現地到着しました。好天にも恵まれ、汗して植林を終えたときには、

あちこちでここにこしながら皆が楽しかった、楽しかったねと喜び合っている姿がありました。これなら植林の意義は自ずと理解されているな、主催者の方々や日本からはるる来られた方々に迷惑を掛けずに済んだかなと内心ほっとしたものでした。

植林場所の鞍山市岫岩県地区が同行行政区の最大の水源地であるとの重要性だけでなく、同市政府、県政府や地元の人々の植林による豊かな未来作りに対する強い意思のようなものを参加された一万人とも二万人ともされる数や関係者の熱意の中に感じました。日中友好が通いつている現場に自らも立ち会うことが出来ました。今回参加した弊社従業員やその家族から、他の人も誘ってまた来年も植林をしに行きたいなど自発的に言ってくるの密かに期待しているところ

です。



モンゴルの地を訪れて

株京樽 星野 智信

今回、初めて日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂きありがとうございました。初めての中国は色々な意味で印象に残るものになりました。

大連空港に降り立ち、そこからバスで約五時間かけて岫岩に向かったのですが、まず車窓から目に飛び込んできたのは見渡す限りの枯れた風景でした。

中国の砂漠化現象が進んでいるとテレビの報道は聞いていましたが、実際に自分の目で見て、愕然すると同時に、植林活動の重要性は改めて認識しました。

翌朝、各々ジープに乗り込み植林地に向かうと、そこには岫岩県人民政府要人、地元中学生や近所に住まわれている一般の方々など、一万人の人々が私たちを

歓迎し出迎えてくれました。

盛大なセレモニーの後、いよいよ植林活動です。地元の中学生と一緒に植林作業をしながら、フツと思ったのは、言葉が通じなくても同じ目的意識を持って協同作業をしているので、心の中では通じ合えたのではないかといいことです。

そして何年か後、ここに植えた木々が成長した時、もう一度この地を訪れて一緒に植林活動をした中学生や地元の人々と喜びを分かち合い、友情を深めたいと思います。

最後になりますが、事務局の皆様、参加された各企業の皆様、中国現地の皆様大変お世話になりました。この植林活動に参加させていただき、とても有意義な

この活動の積み重ねが豊かな森に成長するのを祈って止みません。ありがとうございました。



時間を過ごせました。本当にありがとうございました。



成果

株まるき 木下 淳

「北大荒」と呼ばれる、中国の荒れた土地に植林を始めてから九十年。

この度は、所謂我々業界とは異なる各位の賛同を得ることが出来、今迄で最大規模の植林セレモニーを行なえました。これも、水野理事長・小島理事・佐藤理事及び中田事務局長の御尽力を以てしてのことです。

並びに、御参加頂きました植林団各位、大連岩崎電気有限公司様各位、社団法人全国燃料協会様各位に、この場をお借りして、あらためて謝意を申し上げます。

さて、この十年(下名は八年ですが)間に行うことの出来ました事業は、各地で小さな林となって育っております。昨夏、二〇〇四年・〇五年の植林地で

あります黒龍江省牡丹江市東京城に仕事で赴く機会がありました。その際に〇四年植林分を確認致しましたところ、平均二メートルを超えるまでに育っておりました。五〇年程前に劉少奇国家主席が植林したとされる青々と茂った森の隣で、我々が施せた日中友好の芽が、身長を越す迄に着実に成長を遂げていたこと。大事に育林頂いた方々の想いに、掲げられた碑の「日中友好林」の五文字が当に正鵠を得ていると感慨無量でありました。これからも永劫に続く二国間の友好関係の橋を、一つ一つ丁寧に架けていくこと。これが、我々が子孫に残すことのできる確実な成果となることを誇りに思います。





アジアの森林面積、増加に転じる！

(株)吉野家 津嶋 直人

私は今回初めて、日中環境保全友好植林実践会に参加させていただきました。まずは、先達の志と実践、及びその継続に敬意を表します。

その数値評価をしたものに、国連食糧農業機関（FAO）の世界森林資源評価二〇〇五がありました。これは世界の森林面積の変化を調査しています。

「アジアの森林面積は二十世紀後半減少していましたが、中国での植林活動により二〇〇〇～二〇〇五年では増加に転じたのであります。（アジア全体で▲四十万ha／年から五十万ha／年へと増加）」と記してありました。

ところで、森林の一般的な役割は、① 光合成により二酸化炭素を吸収し、

酸素を作り出す。

② 地上動物の生存・成長のために最適な環境を与える。

③ 水を蓄え、土の流出を防ぐ。

④ 木材資源を供給し、住宅や家具、紙の材料となる。

そして、次の世代に望まれることは森林の生態系を維持し、その活力を利用して、人類の多様なニーズに永続的に対応できるような森林の取り扱いは行うことです。

さて、私がバスの中から見た遼寧省は、高速道路や市街地道路整備が立派でした。その周りの平地は牛が通れるような場所はずべて耕されていて、軒先は薪の山でした。まだ桃の季節なので、緑はほんの

わずかでした。このとき、ツアーガイドが「中国はすべてが国有地という制度である。」ことを説明しました。開墾による増産や、北に位置する遼寧省における燃料の確保等は、最優先事項に属することを察しました。

私の見た中国の現状は、森林を含むすべての燃料資源を一方通行で消費しているようでした。これを、持続可能な森林経営にすることが植林の目標であると自覚しました。

また、今回の植林ツアーで多くの体験ができたことを感謝します。

① 「手回りの中国植林ツアー」、団体旅行の息苦しさもなく、地図で行き先を示さないようなミステリアスなような楽しさがありました。

事務局と理事の皆さんに感謝します。

② 「現地小学生の植林への熱意」、岫岩での植林活動で、これが最後の苗

一本と違って植えたら、別の小学生が両手に苗を抱えて待つていました。両手で四本なので、また一段谷に降りて、苗を全部植えました。すると、また別の小学生が苗を抱えていて、植林を続行しました。次にあった小学生は、谷の上で集合がかかっているかと教えてくれたときには、私は一番谷底にいました。

③ 「おいしい中国料理」、白菜鍋、朝のおかゆ、炒り卵のトマト煮など温かい料理がおいしかった。

④ 「反目がなかったこと」、かつて旧満州鉄道の本社があった大連には多くの日本企業が進出しています。そういう遼寧省の土地柄もあるのでしょうが、日本人に対する平常心の対応ができていたことが、私の新しい中国のイメージでした。

最後に、中国の植林ツアーに当社の女性社員が近い将来参加できますように、環境衛生整備のさらなる発展を望みます。



穏やかな春の大連で

陽明印刷(株) 足立 俊夫

新緑に願いをこめて今日の植林事業の参加も昨年に続き二度目の参加とさせていただきます。

一年前、降り立った大連空港は今年もまたやって来たという気持ちと植樹に対する新たな気持ちでした。

大連空港から岫岩県に四時間ほどバスに揺られ、まず到着したのがホテルで、前回のホテルよりさらに良いホテルでした。

翌朝、岫岩県のメインストリートでは街路樹の石碑に植林貢献した者たちの名前が刻まれていて自分の名前もあったことに大変光栄に思いました。

ジーブに乗って植林地へ向かい植林を去年同様の思いを馳せながら、また新緑を思い植え付けました。

一万人もの人々が集まってくださり、植林を続けることの大切さを改めて実感いたしました。



二一のシールをプレゼントしたところ大変喜ばれ、私共も嬉しいひとときでした。

大連の町は大きな町で地方都市としては経済的重要性から省クラスの自主権をもつ副省級市にも指定されているので充実した環境でした。

大連旅行を兼ねた植林事業でしたが大連にもまた観光として山、海、広場などに行きたいものです。

今回記念事業に参加された団長、副団長ならびに事務局長様大変お世話になりました。



木を植え、心を耕す

旭化成パックス(株) 諸角 能徳

今回の日中環境保全友好植林実践会への参加は会社として三回目となりますが、私自身は初参加でした。

十回目という節目、また日中平和友好条約締結三十周年、そしてオリンピックイヤーという意義深い年に参加をさせて頂き大変感謝しております。

このツアーでまず驚いたのは、空から見える大連空港周辺のビル郡でした。高層ビルが悠然と立ち並び、また至る所で建設が行われ成長著しい中国の様子を垣間見る事が出来ました。

一方で五時間程バスに乗り、植林地である岫岩へ向かう街並みは、大連とは全く違い質素な家屋が多く、家の前にはたくさんのお花やトモロコシが植えられ、都市部との生活やインフラの格差を感じました。

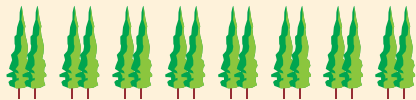
植林地では小学生の心暖まるプラスチックの演奏で迎えられ、また参加者が総勢

一万人という規模にも圧巻させられました。現地の中学生達と一緒に汗を流し植林をさせて頂き、言葉こそ通じませんでしたが、より良い地球環境を造ろうという気持ちで純粋に一緒に働いた事に喜びを感じました。また単に大地を耕しただけでなく、自身の忘れかけていた大事な心も一緒に耕せたと感じております。

昨今地球温暖化の問題により、グローバルな視点での解決策が求められる中、国境を越えたこの様な取り組みは非常に重要であり、またこの会が発展し日中の関係が更に友好化する事を期待致します。

最後に影でこの会を支えてくれました団長、副団長、事務局の皆様のおかげで、素晴らしい体験をさせて頂き本当に有り難うございました。





山に緑・川に水

京葉流通倉庫株 池田 哲司

今回、日中友好植林に初めて参加させて頂き想像以上の驚きと貴重な体験を致しました。

日本では山間地のイメージを問われれば、「緑に生い茂った山」そこから湧き出る「満々とした清流」を思い浮かべてしまふ。

しかし、今回バスの窓から見た景色は日本のように季節感「四季」が少ないといっても「山に緑が無い」「川に水が無い」「土が砂化している」の現実を見ました。

これも、気候の問題も大きいとは思いますが「山に木が無い！それは木が育たない？育てない？どちらにしても山に木が無いことが循環を良く出来ない大元」と感じました。

ならば、中国の人々も様々な原因からの大気汚染で一年中苦しんでいるよりは色々な木をいっぱい植えて・太く育てて

時的に花粉症でマスクでもした方がまだ良いのではないかと馬鹿げた事を思うのは私だけでしょうか。

阿井副団長が仰っていた「植林は子供たちの未来のために：『中国側もこの植林の重要性をもっと現地日系企業を含め広げるべきだ、そのキーはメディアをもっと利用するべきでは：』この言葉に日中環境保全友好植林実践会がこの国に対する強い思いやりとこの植林の輪を更に大きくしたいとする心に深く感銘を受けました。

私も機会があれば環境保護活動に積極的に参加したいと感じた次第です。

又、今回貴重な体験をさせていただいた事務局、団長・副団長並び関係者各位の皆様にご挨拶を申し上げます。ありがとうございました。



黄砂が来ないように

富国紙業(株) 吉川 明男

昨年二万人が参加した植林の感動から、今年も参加させていただきました。

昨年の植林現地の動向から、中国も国を挙げて植林に力を注ぎ始めたと感じましたが、今年是我々訪中団の中でも、植林に特段の熱意をお持ちの井出団長を中心に阿井副団長、小島副団長、一回から十回まで毎回参加の佐藤副団長をはじめ総勢四十名と、更に中国大連の日系企業である「大連岩崎電気有限公司」様一行百二十八名と日本の団体「全国燃料協会」様一行十四名が当方のお誘いに賛同し参加されたことは、昨年参加者二万人の勢いに繋がっていて、関係者の山を緑一色にしたいという熱意が伝わった結果だと思えます。

私自身、孫の為にこれ以上日本に黄砂が来ないように、そして地球環境が悪化



もっと広めて

有 佐藤商店 佐藤 正勝

友好植林は今回を含め七回目の参加になりました。又、今回は第十回となる記念日に参加出来た事大変光栄に思います。今回参加された方は、我々実践会メンバーと社団法人全国燃料協会様十四名、大連岩崎電気有限公司様大人一七名子供十一名と中国側小学生から中学・高校生含め一万人の参加で今年も盛大に植林活動向けられましたこと感謝致します。参加する毎に思いますが、大連空港から現地に向う移動中でも山を見ていると太い木が無く、有っても細い木しか無いのが現状です、植林当日現地の方々と一緒に苗木を植えて行きながら思いましたが、急な斜面も現地の学生は平気な顔をして植えている姿を見て自分も負けずと植えてしまい、天気が良いせいか思ったより気温が厚く直ぐに汗が流れ出し、学生達

しないよう少しでもお役に立てればとの思いからの参加でした。中国では「水を飲むとき井戸を掘った



方を忘れない」という諺があるそうですが、山が緑一色に染まった三十年後、五十年後には国と国との友好関係も、もっと濃密になっているのではと期待します。今回の植林を通して、参加された皆様方に大変お世話になりました。



きましようね
本当にお世話になりました。謝謝



すばらしい体験に参加して

王子運送(株) 吉田 祐介

この度は、「日中環境保全友好植林実践会」にご一緒させて頂き有難うございました。

今急な代理出席であった為、植林を行うことのみ理解しており、これほどまでに盛大でまた地元の方々に感謝されるものとは知らずに参加しました。

当日、植林地へ入った瞬間の地元の子供たちが待ち受ける光景は今でも目に浮かびます。

いざ植林が始まり地元の子供たちに話しかけてみると、彼らは木がうっそうと茂る山を知らないと話していました。木が生えていてもわずかで、山はほとんどの場所で土がむき出しになり乾燥してい



すばらしい植林活動

イデシギヨ(株) 井出 貴臣

今回、第十回日中環境保全友好植林実践会へ初めて参加させて頂きましたが、大変すばらしい行事であり、生涯忘れる事はない体験をさせて頂きました。

この会はNPO法人になっていてという話を聞き、自分がそのNPO団体の一人として活動をしている充実感に震えま

した。諸先輩方にも親切にして頂き、初日の盛大な結団式、そして恐るべしバイチュウでの乾杯、今でも私の思い出に焼き付いております。

大連空港から岫岩市へ向けてバスで五時間の移動をしましたが、岫岩市に近づくと、周りの景色が次第に木の無い山、緑がほとんど無い景色となり、また、路上を歩く現地の人々の土埃で汚れている顔を見たり、小さな部落がポツンポツンと点在しているのを見て、自分なんて貧乏者だとカルチャーショックを強く受けました。

るものであり、一旦雨が降りだすと流れ出した土で汚ないものなどの認識を持っていて、日本において当たり前の光景がこの地では当たり前でないことを知りました。

彼らは自分自身で植えた木が何年か後に大きく育ち、将来自分の子供をつれて遊びに来たいとも話しておりました。今回植えた木が大きく育ち景色が変わることを期待しています。

私は現在中国国内にて駐在しておりすが、今までこのような活動には参加したことがなく大変有意義な時間でした。今後の生活の中で今回の活動を誇り、微力ながらこのすばらしい事業を広げてい

た。荒れ果てた荒野といった感じの風景で、黄砂が舞ってしまふ環境問題は、緑が無く、土に栄養分が無くなり枯れてしまふ砂漠化する事から発生する事実を目の当たりにしました。

翌日ホテルから植林セレモニー会場へ移動するのに、地元消防団の使用している十人乗りのJEEPに乗りいし山道へ入り、凸凹道をひた走り、車内では上下左右に体を振られながら植林場所へ到着致しますと、そこには約一万人の地元地域住民が我々を出迎えて下さいました。

この植林活動に地域の皆さんがとても協力的・積極的であると感じました。私は、地元の中学生とペアを組みまして、まずスコップで適度な穴を掘ります

と、ペアを組んだ地元中学生の子が、苗木をその穴へ入れてくれるので、そしてまた土を盛るといった流れで山の斜面に沢山の苗木を植林いたしました。

ただ穴を掘ると多くの煉瓦や瓦が見ら

くお手伝いをさせて頂いたかと思えます。この活動が今後も末永く続き成功を収



れたので、土にもあまり栄養が無いと感じられましたが、何とかこの場所が緑あふれる大地となる事を祈りながら、ペアの地元中学生と一本一本純粋な気持ちで苗木を植える事が出来ました。今後は是非参加させて頂きたいと思

います。最後に事務局並びに関係者・参加された皆様、大変お世話になり感謝しております。有難う御座いました。



めますようお願い致します。最後にありますが、団長以下、参加された方々にいろいろお世話になりました



緑生い茂る森になることを願う

ジョンソン・デイバーシー(株) 元田 真人

「第十回日中友好植林事業」に参加をさせて頂き、一生忘れることのない経験をさせて頂き深く感謝いたします。中国に入国することも初めてで、日本におけるマスコミ報道等にて先入観があり少々不安があったことは事実です。ですが、現実を目の当たりにして先入観が間違っ

たこともまた事実です。中国と言うと、黄砂というイメージが大変強く「なぜ日本にまで飛んでくるのか?本場に砂なのか」という疑問を持ち大連空港に降り立

ちました。そこからバスで約四時間かけ岫岩に向かう途中の景色で、既に答えは出ていました。とにかく緑(木)が少なく、木の背丈が低い。いけどもいけども景色は変わらず。この時点で今まで諸先輩方々が第一回より大変苦労をされたながら植林を続けてこられた意味がほんの少しだけ分かった気がしました。

植林当日、既に植林された場所を横目にジープに約二十分揺られ到着し、現地のかたがたの熱烈的歓迎に大変驚きました。あれだけの人数に歓迎されるとさすがに植林にも気合がはいり、中国の子供たちと一緒にスコップを持ち肅々と苗木を植え続け終わったときには、少ない本数ではありましたが、達成感を感じることが出来ました。見渡す限り荒れ果てた土地に新たに植林され、二十年後・三十年後には必ず生い茂る緑の森になることを想像すると、微力ではありますが参加させて頂いたことに誇りを感じました。

中国は、今後も日本といろいろな形で連携をとっていく国であり、友好的でなければいけない、その重要性にいち早く目をつけられ植林活動を行ってこられた諸先輩方々敬意を表すると共に、これか

らも何十年と続けていく必要性を感じさせられた事業でした。最後に、今回日中友好植林事業を通じて異業種の方々との親交を深めさせて頂き、皆様と共に植林事業が出来ましたことを深く感謝いたします。また、植林ツアーの団長として頂いた井出団長をはじめ中田事務局長及びスタッフの皆様方の多大なるお力添いに深く御礼申し上げます。ありがとうございます。





植えた苗木を数十年後見てみたい
デンカポリマー(株) 大関 学

第十回日中環境保全友好植林実践会に今回初めて参加させて頂きました。

私自身中国は初めてであり、中国でのチベット独立や、食の安全、貧富格差等様々な問題が報道され出発前まで色々な不安がありました。しかし今回の参加で大変貴重な経験をさせて頂きました。

大連空港から岫岩へ向かう道中、まず最初に驚いたのが日本では有り得ない交通道路事情、事故無く目的地にたどり着けるのか?と不安でした。

そして都市部から数十分走ると風景は畑と山々にガラッと変わりました。しかし緑が殆ど無く、まさに一面茶色一色で

土壌に栄養が少なく葉が発育しにくいのかな?と感じました。

そして岫岩へ到着。その町並みは映画で見たことあるような風景で「おー」と思いましたが、瓦礫の山やゴミ山があたりを囲って目につきました。様々な驚きと日本との文化の違いを感じながら、モラルの低さを痛感せざるを得ない印象を受けた初日でした。

そして翌日植林活動地へ。そこでの光景はまさに驚きと感動で、約一万人の地元子供達が「熱烈歓迎」の文字と演奏で出迎えてくれました。この植林活動はすばらしい思い出としてずっと残ると思



植林に対する真剣なまなざし
北越パッケージ(株) 小島 正人

四月十一日〜十五日までの五日間、特定非営利活動法人「日中環境保全友好植林実践会」の主催による中国での植林事業に参加させて頂きました。

一日目の大連周水子空港から岫岩市内までの長い道のりは私にとって非常にカルチャーショックを受けた光景でした。

なぜなら、農作業をしている多くの人々は耕運機等の機械を全く使っておらず全て鋤を使った手作業での農作業をしていました。

日本では殆どが機械化されているのに対し未だにこの様な手動での農業風景は私にとって新鮮に映りました。

その晩の食事に関しては日本では食した事が無いものばかりで殆ど口にすることが出来ず正直、先行き不安になりました。

二日目は、地元小中学生からの熱烈歓迎セレモニーの多いよメインである植林を行いました。

また、土だけでしたらもっと簡単に掘れたと思うのですがとにかく「石」が非

常に多く掘るのにも大変苦労しました。

休む暇を与えず「ここ掘れ!ここ掘れ!」で容赦のない子供達にはホントに参りましたが、彼らの植林に対する真剣なまなざしと姿勢に感銘を受けました。

三日目、四日目、五日日は大連市内の観光がメインとなりましたが鞍山二一九公園では今まで植林した諸先輩方の木が順調に成長しているのを見て嬉しく思い、自分が植林した木々もこの様に順調に成長してくれる事を切に願いました。

市内に入ると一変して風景が変わり車も多く東京とあまり変わらない様に感じましたが、交通ルールを全く守らない風潮にいささかヒヤヒヤしました。

中国は「自転車社会」という風に思い込んでいた私は、この車の多さに驚いたと共に中国の進化を痛感しました。

日本車も多くみられガイドさんから「日本車は中国では高級車にあたる。」という話を聞いて日本車の技術の高さを感じました。

ます。そして何十年後、植えた苗木の成長を見てみたいな、と感じました。

今回で第十回目の植林活動ですが地球規模ではまだまだ微々たるものかもしれま



市内に入って食事も食べられるようになり一安心しました。

今回「第十回 日中環境保全友好植林実践会」に参加させて頂き貴重な体験をさせて頂く事が出来ました。

この経験を少しでも日頃の仕事に活かして行きたいと思えます。又、運営に携わって頂いた方々に深く感謝し心から労を労りたいと思えます。本当に有難うございました。



せん。実際、報道では、地球温暖化が進んでいるとされております。だからこそ、この植林活動が何時までも継続し、どんな規模が大きく成って、いつの日か温



自発的な環境活動に繋がって
東商化学(株) 森山 仁

第十回日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂いたとき、有難うございました。会社としては三年連続で、個人としては初参加となりました。

初日、大連周水子空港から約四二〇キロ先の植林地シウヤン県へ移動しましたが、新聞紙上で中国各地の砂漠化、割り箸問題の記事などを見かけてはおりましたが、実際に移動中のバスから見る山々の木があまりにも少ないのに驚き、森林保護及び植林実践の重要性をあらためて認識させられた初日でした。

翌日の植林セレモニーでは、地元の小中学生を中心に住民、中国各局関係者を含め総勢約一万人が参加していると聞き、その規模の大きさと熱烈な歓迎ぶりに感動いたしました。シウヤン県での植林実践会が今年で三回目と聞いておりましたが、身振り手振りのコミュニケーションで慣れない私を、子供達は馴れた手つきで笑顔でサポートしてくれ、二〇本程度ではありましたが植える事ができ大変貴重な思い出として心に残りました。現地関係者及び実践会事務局の皆様の相互理解、友好関係、熱意は本当に素晴らしい、子供達にいたるまで植林事業への理解が浸透している印象を受けました。現地協会での植林活動が継続され、数十年先のこの子達の代には、シウヤン県に至るところに緑ある森が見られると思うと楽しみでなりません。

今回のツアーでは、大連市開発区及び市内の都市部も訪れる機会を与えて頂き、急速な経済発展と馬や牛も散見される農村部の両方を見ることが出来ました。産業界活動と環境保全を両立させる事は、非

暖化がストップしたとの報道番組を観る事を期待したいです。

常に難しいかもしれませんが、この様な地道な活動の継続が徐々に理解され、今回十回目で累計約七十五万本(東京ドーム四十三個分の面積)もの植林ができたとお聞きしました。これほど立派な官民一体となった取り組みは必ず今後、各地での自発的な環境保全活動に繋がっていくものと思えます。

実践会発足当初の大変苦労された話などをお聞きしますと、事務局及び当初から参加されている皆様の熱意が伝わってきました。この事業が回を重ねる毎に、双方の友好関係を深めるために模索しながら努力し、各実践地で経験したことを生かし、環境に対して双方で共に考え、実践を通じて次世代に伝えていく。その繰り返しで友好関係が更に強固になっていく。大切な事をあらためて考えさせられた素晴らしいツアーでした。





言葉の壁を難なく乗り越え

日野原 靖士

この度は、植林活動と言う貴重な体験をさせて頂き誠に有難う御座いました。この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

実践会初日、不安と期待とが入り混じった複雑な思いで参加をさせて頂いたことを鮮明に覚えております。成田空港に到着し、皆様にお会いし、少し期待感が不安感を押しつけておりました。中国に到着し、まず初めのカルチャーショックは、解団式の場でも申し上げましたが、交通事情の違いでした。圧倒されました。「信号が無い」「人の横断は当たり前」日本ではありえない光景に目を疑うばかりでした。



いざ植林へ：
植林に関しての第一印象は、非常にスケールの大きな取り組みであるということでした。もっと小規模で行っているものと思っておりました。ホテルでの結団式に中国政府の方々が勢ぞろいし、初めて事の重大さを知ることとなりました。



参加して本当に良かった

溝端紙工印刷株 巽 一弘

翌日、現場に入り学生さんや多くの関係者の方々や植林を行いました。言葉は通じなくてもやることは一つ。言葉の壁を難なく乗り越え皆笑顔で木を植えることが出来ました。一部報道などでは、反日感情が激化しているなどございますが、やはり情報と真実は異なり、文字通り日中友好の場があるということ。最後になりましたが、座談会での阿井様のお言葉通り、志ある、また歴史あるの会に参加させていただいた事を誇りに思い、そして感謝いたしております。本当に有難う御座いました。



最初に、植林に参加させて頂き有難うございました。

成田を出発して大連周水空港に到着する迄は、中国を訪問する事が初めてのなかかなり緊張していました。大連空港に到着すれば日本とほぼ変わらない環境なので一安心。空港より岫岩市内に向かって走っている景色は、都会より地方へ行くほど景色が変わってくるのに驚きを感じました。

山並みは、ほぼ樹木が無い状態で、田畑も大げさに言えば草一つ無い状況である。日本の山々では、小さな草木が生い茂っているが目に入った景色は本当に草一つ無い状況の景色が広大な土地を茶色の色が覆い尽くしているのにびっくりする。通常田畑の中間部は耕してあり日本の田畑と何の変わりも無くであるが、広大な田畑に向かう畦道と言ってよいのか小さな道にも草一つ無い状況である。このような地域で生活している地域の方々には本当に驚きを隠せなかった。



この活動が共有の財産でありたい

アオト印刷株 佐藤 勝巳

第十回・日中環境保全友好植林実践会に初参加させて頂いた有難うございました。大連空港から現地へ移動するバスの中で眺める景色は、これから新緑を迎える日本の山と比べて全く違う赤茶けて緑の無い山ばかりに驚かされました。現地の皆様は歓迎の祝福を受け、降り立った大地を踏みしめながら、改めてこの活動が非常に重要なことだと再認識し植林をさせていただきました。活動に参加していただいた学生達は、皆素朴で一生涯懸命手伝わってもらい、会話ができない私は、笑顔で「感謝」と言う

緑が無い！花の色が無い！このような環境の下で私にとって生活は出来ない。気の休まる状況では無いと伺えた。山を越え、岫岩市内に入ると又もや驚いた事はやはり緑が無く土ポコリが目立っている。道路にも広場にも日本と大違い土ポコリが多かった。中国は大陸の状況の下、このような環境も有りかんと感じていたが、岫岩市内で感じた事は大気が汚れているという事が印象深く、今でも頭の中に残っている。そこで、私たちはこの雄大な土地(岫岩市内)にやってきたのが理解できた。四月十一日は殆どが移動の日であったが、翌日十二日の早朝より岫岩市内の山林にジープにて登り植林作業をする。植林には地域の方々(地域の代表者の方と小学校・中学校の生徒)が植林に協力をしていただいたのにも感動する。

この山々の木々を日本の企業だけではないが、ハゲ山にした事は反省しなければならない。



と満面の笑みを返してもらえました。言葉は通じなくても、笑顔と気持ちに通じているように思い、植林から育林にパトナタッチ出ていると感じられた事を今思い返します。後から教えていただいたお話の中で、今回の植林で植えた苗木の本数が七万本という事に圧倒させられながらも、過去の総本数が七十五万本に達している事には今まで参加された先輩方との共有の財産にさせていただければと思うと同時に、事務局の方々のご尽力に感謝いたします。日本に戻り考える事は、昨今の取沙汰されている環境問題ときちんと向き合い「終わ

植林作業には、私たちが木を植える穴をほる。生徒さんたちがバケツリレー方式にて私達の作業地へ苗木を運んでくれる。これは、国が違っても互いに協力で中国(岫岩地域)の将来の事を考え作業に没頭出来た事は私にとって生涯忘れられない出来事となった。中でも特に感動したことは、私について苗木を、穴に差し込んでくれた女生徒さんは、私の汗をみて国が違う今初めて逢った外国人にティッシュを渡してくれた事は本当に感激しました。この子供達の為に中国まで訪問し植林に参加させて頂いてもらった事に本当に良かったと感じました。

緑が復活し、自然の状況下になれば日本の様に生水でも飲める環境にいつかはなれるのではないかと考えた。翌日、岫岩市内を後にして鞍山市内へ向かったが、やはり緑と言う物が少なく感じた。これもやはり木々の伐採が原因で緑が少なく大気も日本のように美しくは無いと少しは伺える。建物の中は美しくしているが、外壁等は土ポコリが多いのが印象に残っている。



ったことでは無く、現在進行形で身の回りで出来ることをしていかなくてはいけない」という使命感です。今回の植林活動に参加された皆様には大変お世話になりました。今後とも宜しくお願い申し上げます。本当に有難うございました。

この中国の緑の破壊は、日本にとって良い環境では無いとも伺える。偏西風に乗って、黄砂が飛んでくるのである。未来の日本・中国、いや地球の事を考えて植林でもこつこつとつづけて環境を守らなければいけない。初回からの植林総面積は東京ドーム四三分の面積に値すると聞きこの面積を一〇〇倍・一〇〇倍と増やしていかなければならない。初回より参加されている先輩方には脱帽する。是非、次回も参加したい。しなければならぬ状況と心を打たれた。

今回、植林に参加させて頂き良き友人と言つてよいか皆さんと友になれた事は本当に良かったです。これを機会に皆様と良き友人としてお付き合い出来れば幸いです。今後とも宜しくお願い致します。





岫岩での友好植林をもっと継続して

三徳日中技術株 王 徳麟

日中環境保全友好植林実践会主催の友好植林に三年前の第一回から参加させていただいております。

毎年中国への植林に参加される団長、副団長をはじめ全参加者の献身的な活動を毎年目の当たりにして強く胸を打たれていました。その結果私も念願であったこの実践会に入会を果たし、岫岩で三回目、通算十回目の記念する今年、会員の一人として参加することができました。経済成長を目指す中国では、黄砂、水害などの自然破壊が日増しに激しくなっ

て来ていますが、植林ほどこれらを緩和し更に経済的にも好循環を生む一挙両得な事はありません。

毎年二月に入ると、岫岩県劉党書記、鄧県長及び各副県長を始め、政府関係者、林科所、財界人の皆様が、岫岩の一大祭りであるこの「中日友好植林祭」を迎える為の諸準備に取り掛かります。そして再三にわたり確認の会議を行い「あと何日ですか？」と首を長くして期待して待つている状況です。

実践会訪中団の方々には日本からわざわざ



植林の輪の広がりを感じ

水野産業株 亀井 克巳

今回、日中環境保全友好植林実践会に初めて参加させていただきました。

岫岩の現地では一人余りの人々が植林活動を行なっている壮大な光景を目にして規模の大きさに改めて驚き感動を覚え、又笑顔の子供達との植林活動、又過去からの植林に参加した人々の名前が刻まれた記念の石碑など、思い出に残る時間を過ごす事が出来ました。

私は、第一回の植林実践会がスタートする以前の打合せに関わった関係で、当時の実践会の規模や状況は承知していましたが、今回第十回に参加して改めて植林の輪の広がりを感じ、十年の間継続した実践会の活動が中国国内の林業局以外の政府機関や財界の方々にも理解され、賛同されここまで盛大になった事に深い感銘を覚えました。

世界的に環境問題が注目されている現在、多くの企業や団体が世界各地でいろいろな目的で植林活動を行なっていますが、純粋に未来のために植林をして「林や森を造る」と毎年実践しているグループが幾つ有るでしょうか。



今後とも未来に向け日中環境保全友好植林実践会が成長を続け、多くの仲間と植林活動を継続する事を願っております。

最後になりますが、中国関係者との交渉にあたられた大変な御苦労された実践会理事の方々には心より感謝申し上げます。又、今回参加された皆様には大変お世話になり有難う御座いました。

ざ岫岩まで来られながら、自ら植える苗木はわずかだと思います。しかしその精神がすばらしいと思います。一緒に参加した数多くの現地人、特に未来を担う小中学生たちが美しい地球環境を守り、植林愛林の意識を高めることが出来、何万人、何十万人規模で、何年、何十年に亘って植林を続けることが出来るでしょう。

この友好植林を通じて岫岩発の緑が中国全土で溢れるようになり、実践会と岫岩県民との友好の絆がますます深まっていくものと確信しております。

最後に、せっかく事務局と毎年ご参加の皆様との協力のおかげで、岫岩での素晴らしい友好植林が3年も円満裏に続いてきた以上、あと五年、十年続いて欲しい



常住不断

水野産業株 笠原 良悦郎

今回、初めて日中環境保全友好植林に参加させていただきました。有難うございました。

私自身、中国を訪問するのが初めてで、テレビや新聞で報道されているのを見聞できること、何よりも植林活動に参加できる喜びと期待に胸膨らませ、大連周水子空港に降り立ちました。大連から植林活動地の岫岩に向かう道中は、日本での昭和二十年から現在までが混在しており、馬車の隣を高級車が追いついて行く不思議な光景でした。そしてスケールの大きい雄大な耕地、その向こうには緑の無い山々が続いています。その山々に深々と樹木が茂り、綺麗な水を貯えて灌漑整備ができれば、あの広大な耕地を潤し水稲を初め色々な作物を大量に生産出来るだろうと思ひ、今回の植林活動の意義を改めて考えさせられながら岫岩を訪れました。

植林活動当日は現地、小・中・高校生と関係者方々など驚くほどの人達から熱烈な歓迎を受け、こんなにも多くの方々が私達の植林活動に携わっていただいているのを実感し感銘しました。そして植

ことは岫岩五〇万県民の願いであり、小生の願いでもあります。「実践会」に入会



してよかったですと思っています。また来年も一緒にさせていただきます。

林実践の開始です、最初は照れながら苗木を手渡しする生徒達でしたが、会話でのコミュニケーションは困難で手振り身振りでも互いに表現し、時間が経つにつれ一人だった生徒が二人、三人とその輪が徐々に大きくなり、少し休憩しようと思っても次から次と苗木を渡され、その暇も無く何とも言えない充実感のある心地好い汗を流し実践を終えました。感謝の言葉に国境は無いことを信じ生徒一人々に「ありがとう」と言葉をかけて、植林という貴重な経験をさせていただいた土だけの山が、十年後・二十年後には深々と樹木の茂った緑の森になっていることを信じ後になりました。

今回で十回の植林活動が行われてきました、世界の広大な土地からすれば僅かな一歩だったかも知れませんが、中国現地の方々ともこれまで友好植林実践会に参加された方々、今回参加した私達にとっでは、それが日中友好の架け橋となり、夢と希望に向かって確実に近づいている意味のある大きな一歩目だったと思ひます。この活動が今後も継続され、その結



果をこの目で見られる日が来ることを「杜の都」仙台の地より願っております。最後に事務局員として参加させていただきましたが名ばかりのもので、今回ご参加いただいた各企業の皆様、中国現地の関係者の皆様へ、この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございます。



植林の輪

水野産業株 高橋 清司

今回、第十回日中環境保全友好植林実践会に事務局員として参加させて頂く事となり、私自身とても良い経験をさせて頂きました。

四月十一日に成田を出発して大連の空港に着いた時の感想は、私の想像していた中国と違い大連市内の建物や人々の服装など、日本とそんなに変わらない事が分かりました。

空港からバスで移動して行く途中に見える光景は、中国の山林の現状を見た様な気がしました。山には木が殆ど無く、畑は乾燥して広大な大地は砂漠化している様に見えました。

初日の目的地まで約五時間かけて岫岩市に到着し、夕食は現地の人々と一緒に

食事をする事になり会場に行く私のグループは全員が中国の人で、私が中国語を話せないと分かると中国の人たちが何とかコミュニケーションをとろうとして身振り手振りで料理や飲み物を勧めてくれて、次第に言葉が話せなくても現地の人の親切で優しい気持ちも伝わってきました。

次の日は、朝から植林をする山にジープで行き、会場に着くと現地の子供達で植林の準備をして待っていました。すぐに私達も植林作業の準備をして、苗木とスコップを持って、植林をする場所に向かい、子供達とコミュニケーションをとりながら一緒にスコップで穴を掘り苗木を植え植林を行いました。



環境保全活動の大切さを感じ

水野産業株 中露 浩二

今回、日中環境保全友好植林実践会の一員として参加させて頂き、誠に有難う御座いました。初めて訪問する中国。植林地へ向かう道の中で見る緑の無い山々の景色、中心部を外れると感じてしまふ都市部と農村部の貧富の差。現在の中国で抱える問題を実際の目当たりにした中

でも痛感でしたのが、農村部に近づくにつれてゴミが非常に多い事。ゴミが町の至る所に放置してあり、環境にも悪影響を及ぼす事が心配され、改めてこの環境保全活動の役割や大切さを感じました。日常生活において、当たり前の様に割箸等の木を材料とした製品を多く使用しているという事は、それだけ木を伐採し環境破壊に繋がっています。しかし今回体験させて頂いた事や、環境保全の重要性を様々な人達に伝える事が私達の大切な役割だと思います。未来の子供達が素晴らしい環境で生活出来る様、少し

でも環境保全に貢献出来るよう、今自分出来ることは必ず行なわなければならぬと実感しております。

植林地では大勢の方々から熱烈な歓迎に驚かされ、地元の小・中学生、県委員会など約一万人の方々のご参加のもと、地元の小・中学生と一緒に植林を行いました。言葉は通じませんが身振り、手振りで意思が通じ合い、小さいながらも日中の友好活動が行えたと感じております。今回植林した木々が災害などに影響されず順調に成長して欲しいと願っております。そしてこの環境保全友好植林活動を私たちの次の世代へと引継ぎ、山々が緑で溢れる様に今後も協力して行きたいと思っております。

最後になりましたが、今回植林活動に参加された皆様には大変お世話になりました。心から感謝を申し上げます。これからもこの素晴らしい活動が永く継続し、環



この植林活動で私を感じた事は、中国の子供達が植林活動に積極的に参加している姿と、この活動を支えている人達が

境問題・日中友好に益々大きな役割を担う事を期待しております。機会がありましたら是非参加させて頂きたいです。本当に有難う御座いました。



一緒になって、環境問題に取り組んでいる事が分かった事です。多くの人達が環境問題に関心を持ちこの植林活動に参加



立派な林や森に成って

水野産業株 西川 雅文

今回、福岡営業所として初めての参加でした。参加経験者から直接聞いたことがなく、前回までの『友好植林実践会報告』からの前知識のみで、始めての大連空港に降り立ちました。そこからバスで延々五時間。目に映るのはまさしく荒野。緑が有りません。遠方の山にも、通過する町や村にも。後で聞きましたが、常緑樹をあまり植えないそうです。

そして翌日、いよいよ植林地の地へ。ジープに乗り込み約三十分。「なんだ！この人だかりは!!」どの丘(山かな?)を見ても人・人・人です。セレモニーが始まりました。政府の方のご挨拶、もろもろあって現地の学生の宣誓。「すごい！こんなに大々的なんだ!!」とにかく驚くばかりのうちに、植林地です。風の噂で「二、三本位じゃない」と聞いていましたが、

とんでもない、次から次に学生さんが苗木をもつてきます。時間いっぱいまでスコップを使い植えてきました。

帰りに遠目ですが、昨年の植林地を見ました、もちろんまだまだ遠いところからは「それ」と判りませんが、この一年現

をして、中国全土に植林の輪が広がる事を願っています。

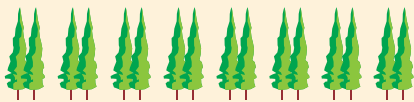
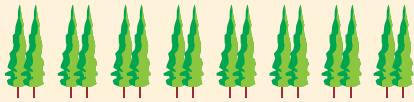
地の方々はずっと世話を下さったそうです。そして今年の植林も、十年？十五年？大きくなるのに何年掛かるのでしょうか。きっと立派な林や森に成ってくれるでしょう。

解団式の時参加者のある方が言われました「この事業を通し植林することで他国(もちろん自国も)の人達と交流できることも大事」なのだ。

痛感しました、まさに物・心ともに意義ある事業だと。

今回、同行させて頂いた皆様、現地の皆様、有難うございました。再会出来る事を願っています。そして何年後か、大きく育った木々達とも再会出来る事を。





やがて森に

水野産業(株) 田中 康生

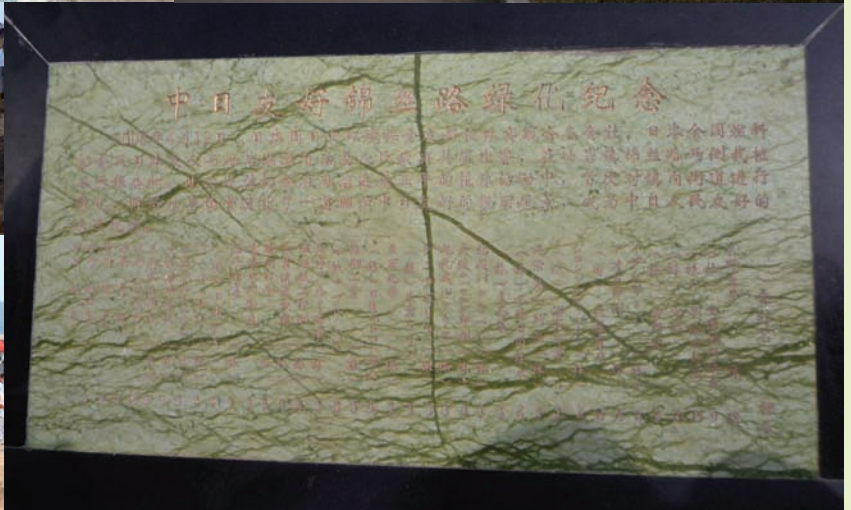
今回、初めて日中環境保全友好植林実践会に参加させていただき、ありがとうございました。初めての中国に期待と不安で一杯でした。大連空港から植林地の岫岩まではバスで五時間ほどかかり車窓から見える景色は大陸、中国を感じさせる大地が広がっていました。ただ、緑が少ない印象を受けました。植林当日は、植林地の小高い山に、県政府関係者、小中高生、地元企業の皆さんが参加されその規模は自分の想像をはるかに超えるもので、植林に対する感心の高さを感じました。また、熱烈的な歓迎を受けとても感激を受けました。そして、短い時間でしたが一緒に汗

をかきながら苗木を植えた子供たちの笑顔がとても印象に残りました。今回植えた苗木が子供たちとともに成長し、やがて森になってくれるものと願っております。今回植林会に参加するまでは、中国の環境問題はどこか他人事でしたが、実際に現地に行き、見て、人々と接することで、身近な問題に感じられるようになりました。植林会は今回で十回目ですが今後も、植林活動が二十回、三十回と続き、山々に緑と、そして植林の輪も広がっていくものと信じております。最後になりましたが、今回参加された皆様、そして岫岩の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

現地でお世話になった方々

劉国秀 縣書記
 関崇新 縣副書記、政治協會出席
 鄧延発 縣政府縣長
 蘭真芳 縣政府常務副縣長

商大順 縣政府副縣長
 高軍官 縣政府副秘書長
 郭欽平 岫岩縣林業局局長
 王志運 岫岩縣林業局林科所所長



会員及び寄付募集のご案内

設立趣旨書

昨今地球を取巻く環境は、先進諸国の産業の発達と、発展途上国による急激な経済活動の活発化とともに悪化の一途を辿っています。

酸性雨、野生動物の減少・生態系破壊、温暖化現象、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化、海洋汚染など様々な要素が絡み合って環境悪化を招いております。

特に最近では地球温暖化による様々な気象その他への悪影響を懸念する専門家の声が増しに拡大しており、京都議定書に象徴されるように、各国がその悪影響を認識しCO₂の削減目標数値を具体的な形で上げるなど、地球環境を守ろうとする国や人々の意思が増大しております。

我々地球に生き、生活している以上、未来永劫子々孫々のためにも住みやすい緑豊かな地球環境を守る義務があります。

CO₂の削減には、様々な産業活動での排出規制も大事ですが、植林などによる森林の増加は、一方で多様な地球環境保全効果が絶大であると言われていることは周知の通りです。

日中環境保全友好植林実践会はこれまで、緑豊かな森林が地球に及ぼす好影響と、日本でも多く消費される割箸などの原料としての木材の正しい供給を踏まえ、森林破壊が懸念される中国での植林の実践を通じ、地球環境保全と緑化増進に寄与するため過去5年間に渡り中国黒龍江省饒河県にて計50万本のカラマツ等の苗木の植林事業を実施して参りました。

そして今後も、中国北部の緑化のための植林事業を推進すること等により、環境の保全に寄与することを目的として特定非営利活動法人日中環境保全友好植林実践会を設立します。

主な事業

- 中国の緑化推進のための植林事業
- 中国の緑化推進のための植林事業の広報誌などによる普及啓発事業
- 中国の緑化推進のための森林保全に関する調査、研究、情報収集事業
- 中国の緑化推進のための地球環境保全・改善事業
- その他目的を達成するために必要な事業

お申し込み方法

会の所定用紙（申込書）に必要な事項をご記入の上、FAXまたは当会ホームページのE-メールにてお申し込み下さい。会費は、右記口座あてお振込みくださいますようお願いいたします。なお、お振込み料金は、貴台にてご負担いただきたく存じます。

お申込書

個人正会員 団体及び法人正会員 寄付

お申込日 | 平成 年 月 日

フリガナ | _____ 業種

お名前 | _____

〒□□□-□□□□

ご自宅住所 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

〒□□□-□□□□

勤務先住所 | _____

勤務先名 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

E-mail | _____

会費

| | |
|-----------|------------------|
| 個人正会員 | 10,000円(1口/1口以上) |
| 団体及び法人正会員 | 50,000円(1口/1口以上) |
| 寄付 | 3,000円(1口/1口以上) |

●FAXにて、下記番号あてにお申し込み下さい。

FAX番号 03-3836-2489

●お振込先

会費は下記口座あてお振込みくださいますようお願い致します。
なお、お振込み料金は、貴台にてご負担くださいますようお願い致します。

| | |
|-------|--------------------------------------|
| お振込み先 | 三菱東京UFJ銀行 秋葉原支店 |
| 口座番号 | 普通預金 3951682 |
| 口座名義 | 日中環境保全友好植林実践会 事務局長 中田 武巳(ナカタ タケミ) |

●ご連絡先

特定非営利活動法人 日中環境保全友好植林実践会事務局
TEL 03-3836-9408 URL <http://www.syokurin.com>
E-mail: info@syokurin.com

編集後記

第10回目となった今回の日中友好植林は、植林現地岫岩政府も重要視した結果約1万人を動員して行なわれました。

今回は大連から「大連岩崎電気」様ご一行128名と日本の団体「全国燃料協会」様ご一行14名が参加され、我々が10年前から行っている植林活動の輪の広がりを強く実感しております。今年の苗木は9.8hrにキハダ(黄菠蘿)、雲杉、ナナカマドなど合計7万本を植えました。

この10年間で植えた苗木の本数は74.7万本に達しています。CO₂の削減に換算すると275万2500Kg-c/ (直径10cm換算) になり211万7300台の大型車(10t)を1時間エンジンストップさせた値に匹敵します。

また、10年間の植林の延べ面積は約200haで東京ドーム43個分、派遣人数は10年間で314名に上ります。地球環境の改善のため今後もこの活動を広め継続して行きたいと思しますので、一人でも多くの賛同者と中国での植林参加者をお待ちいたしております。

(事務局長 中田武巳)

